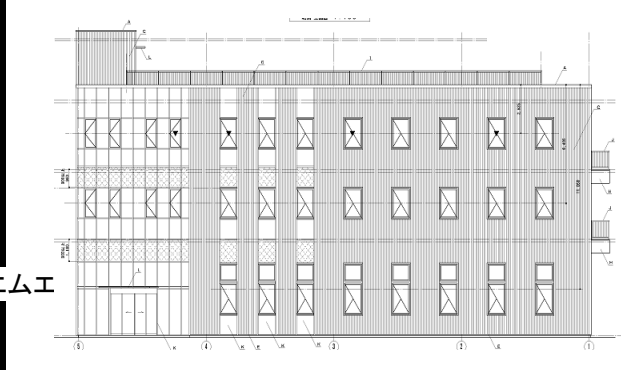


# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸マツダ設備専門学校新築工事	階数	地上3F口
建設地	神戸市兵庫区北逆瀬川町3-10,3-11,3-12,3-1	構造	S造
用途地域	第2種住居地域,近隣商業地域	平均居住人員	210人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,000時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年6月18日
敷地面積	1,297 m <sup>2</sup>	作成者	一級建築士事務所 株式会社エムエ
建築面積	753 m <sup>2</sup>	確認日	2024年6月19日
延床面積	2,258 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.0</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 2.6</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 2.9</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 2.1</p>
LR 環境負荷低減性		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.8</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.1</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.2</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>2.8</p>	<p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>2.0</p>
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
0	0	0
その他の配慮事項		
0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)神戸マツダ設備専門学校新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築  
 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.3</b>	0.15			<b>2.3</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>2.4</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	0.30			
2 界壁遮音性能						3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20			
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.1</b>	0.35			<b>2.1</b>
2.1 室温制御						<b>3.2</b>	0.50			
1 室温						3.0	0.60			
2 外皮性能		窓n:0.39 窓U:4.35 外壁U:1.18				3.6	0.40			
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.8</b>	0.25			<b>2.8</b>
3.1 昼光利用						<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光率		昼光率 2.12%				4.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備		ハイサイドライトを採用				4.0	0.40			
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30			
1 昼光制御						1.0	1.00			
3.3 照度		照度 540.791lx				<b>4.0</b>	0.15			
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.3</b>	0.25			<b>3.3</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質						3.0	1.00			
4.2 換気						<b>2.6</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能		床面積の1/30以上				4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33			
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御		喫煙所設置無し、敷地内を禁煙としている				5.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.5</b>	0.40			<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画						3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性						<b>1.5</b>	0.30			
1 広さ感・景観						2.0	0.50			
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画						1.0	0.50			
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材を採用				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.2</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		ゴム防振吊金具を採用				4.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		長尺塩ビシート貼(床)20年 ビニルクロス(壁)20年 ジプトン(天井)30年				5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VLP(B) 排水:VP(B) 通気:VP(A) Eは不使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階(1階)階高5.2m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.2	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.8</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック配線を採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.73	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		ハイサイドライトを採用	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI <sub>m</sub> =0.73	<b>3.7</b>	0.50	-	-	<b>3.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		自動水栓に加えて、節水型機器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS下地を採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO <sub>2</sub> =排出率82%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
2.1 大気汚染防止		ガス設備の設置無し	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	